

大 同 會 編 纂

國 語 會 話 集

(日 語 對 譯)



C 12

大 同 會 編 纂

序 文

五十年來の今日臺灣は豫期された新存に恵ぐまれたのである。今日に邊り國語普及は我々の任務となつたのである。

吾國語普及熱は我々の愛國の熱意の表現である。尙言語の統一は民族統一の鍵であり民族團結の利器である。

これが諸點に鑑み、弟は本書の編輯に志したのである。即ち本書の内容は左記の如くである。

記

- 1、同一日本語につき出来る丈澤山の國語の用例及び説明を搜入した。
- 2、初心者にもよく分り且つ獨習も可能な様に注音符號及び四聲を記して於いた。

民國三十四年十月二十二日

大 同 會 編 輯 部

注 音 符 號

注音符號は言はば日本の假名の様なものである。尤もその用途は假名程廣くない。日本語は漢字と假名によつて書かれるのが普通であるが注音符號は其名の示す如く、漢字の發音を表はす以外には殆ど用ひられない。恰度日本語に於ける漢字に對する振假名の役をつとめるに過ぎないのである。

聲 符 と 韻 符

先づ注音符號を聲符と韻符に區別する、大体に於て聲符は子音であり韻符は母音に相當する。聲符の「聲」は音の出し初めの「聲」であり、韻符の「韻」は音を出して後に残る「韻」である。「符」はそれを表す符號の意味である。

四 聲

國語には四百餘種の發音があつてそれが各四種類の聲を持つてゐる。その四通りの聲

を四聲と稱し其の名稱は次の通りである。

- 1、上平（陰平或は俗に第一聲ともいふ）
- 2、下平（陽平或は俗に第二聲ともいふ）
- 3、上聲（俗に第三聲ともいふ）
- 4、去聲（俗に第四聲ともいふ）

では四聲の區別はどうなつてゐるかと言へば、

上平は抑揚高低のない平らかな聲である。例へば日本語の（アー）そうですか、「アーよしよし」と言ふ時の「アー」の様に發音すればよい。

下平は初めは低く發し、音尾を強く揚げ急に止めるのである。例へば人の言葉を問ひかへす場合「エツ何ですつて？」と言ふ時の「エツ」「て？」の様なものである。上聲は初め太く低く發し稍長く引き延し、音尾を揚げて強く止めるのである。例へば「アアア疲れた」「アアアがつかかりした」等言ふ時の「アアア」の様なものである。去聲は初め強く發し、音尾が微かに消える様に發音する。例へば不意に驚いた場合「アアアびつくりした」と言ふ時の「アアア」の如きものである。



そして國語に於ては四聲の相違によつて意味が違つて來るものもあるからして初學者は其の時々にしつかり記憶しなすべからぬ。その語の四聲を表はすに本編では符號語の上に 1 2 3 4 の記號を以て示した、即ち 1 は上平 2 は下平 3 は上聲 4 は去聲である。何も符號のないのは輕聲である。

○有氣音と無氣音

有氣音とは氣息を急に烈しく洩して發音するのである。聲の大小には關係がない。無氣音は例へば「ポツポポー」の「ポー」が如き發音である。

◎重

念

「重念」とは「重く讀む」意であつて、熟語又は語句の中の主要な文字を特に強く正確に發音する事である（英語のアクセントに當る）。併し實際會話に當つては、どれを重念にするかといふことは、相當に六ヶ敷いのである。重念の附け場所が悪いと、相手に可笑しく聞えたり意味が通じにくかつたりするから、初學の間は國語のよく判

つた人に教へて貰つたがよいと思ふ。本編ではその點については何等表示をせず専ら各人の練習に俟つことにした。

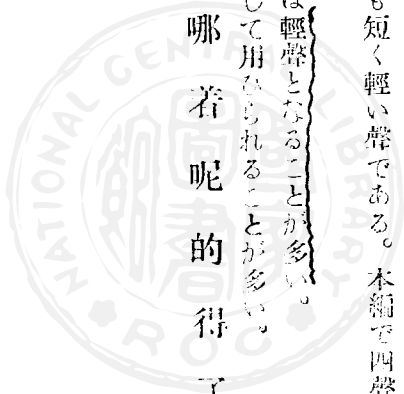
◎ 輕 聲

輕聲とは四聲の孰れよりも短く軽い聲である。本編で四聲の符號を附けてないのは總べて輕聲である。

1、重念の下の文字は輕聲となることが多い。

2、左の字は輕聲として用ひられることが多い。

麼 啊 呀 哪 着 呢 的 得 了 兒 子 頭 們



豫備編

1、挨拶の仕方

會つた時 朝早い中即ち日本語の（お早やう）に當る語として

。您 早 啊 (ㄅㄨㄣˊ ㄉㄨㄢˊ ㄆㄨㄢˊ)

您早起來了 (ㄅㄨㄣˊ ㄉㄨㄢˊ ㄆㄨㄢˊ ㄎㄨㄞˊ ㄌㄞˊ)

等があつてこれに對しては唯鸚鵡返しにするのではなく

是您也早啊 (ㄉㄨㄢˊ ㄉㄨㄢˊ ㄉㄨㄢˊ ㄉㄨㄢˊ)

我剛起來了 (ㄨㄞˊ ㄍㄨㄞˊ ㄍㄨㄞˊ ㄍㄨㄞˊ)

起來一會兒 (ㄍㄨㄞˊ ㄍㄨㄞˊ ㄍㄨㄞˊ ㄍㄨㄞˊ)

等と返せばよい。

其他日本語に當る「今日は」とか「今晚は」はな、唯台灣の習慣の場合と同じく

用了飯了麼 (ㄩㄢˊ ㄌㄞˊ ㄌㄞˊ ㄌㄞˊ)

喝了茶了麼 (ㄉㄨㄢˊ ㄌㄞˊ ㄌㄞˊ ㄌㄞˊ)

等と會つた時何時でもよいから交せばよい。その返答として

● 偏過了 (夕一弓 ㄍㄨㄛ ㄉㄨ ㄉㄨ ㄉㄨ) 喝過了 (ㄉㄨ ㄛ ㄍㄨㄛ ㄉㄨ ㄉㄨ)

とか言ふ、又路上で會つた時

● 上那兒去 (ㄉㄨ ㄨㄤ ㄉㄨ ㄩㄥ ㄉㄨ ㄨㄥ) (どちらへ)

等もよく使用される。

別れる時 「さようなら」に當る語としては。

● 再見 (ㄉㄨ ㄨㄥ ㄉㄨ ㄨㄥ) ● 再會 (ㄉㄨ ㄨㄥ ㄉㄨ ㄨㄥ)

等と言ひ明日又會ひませう等の場合には

● 明天再見 (ㄉㄨ ㄨㄥ ㄉㄨ ㄨㄥ ㄉㄨ ㄨㄥ)

と言へばよい

暇 乞ひ 談話してから別れる時の挨拶としては次の様なものが用ひられる

(1) さあもうお暇いたしませう

● 我要告辭了 (ㄨㄛ ㄛ ㄨㄛ ㄨㄛ ㄉㄨ ㄨㄥ ㄉㄨ ㄨㄥ)

(2) 大部遅く迄お邪魔いたしました

時候不早了 打攪打攪 (ㄉㄨ ㄉㄨ ㄨㄥ ㄨㄥ ㄉㄨ ㄨㄥ ㄉㄨ ㄨㄥ ㄉㄨ ㄨㄥ)

(3) もうお暇いたします お蔭で今晚は愉快でした

(2) (1)

劉先生 這位是李先生 這位是吳先生 (カ一又 T一マ 尸 L 出 L X⁴ X⁴)
 尸⁴ カ一 T一マ 尸 L 出 L X⁴ X⁴ T一マ 尸 L

初めて會ふ人に他人の紹介を経ずして自分で話しかけるには

古さんでいらつしやいますか、

您不是古先生麼 (マ一マ マ X² 尸⁴ X³ T一マ 尸 L 「Y」)

私は何と言ふものでございます、

賤姓何 (カ一マ T一 L 「L」)

中國では姓と號を紹介するが名は普通呼ばないことになつてゐる、即ち「這位是周先生」と言ふこの場合「先生」は日本の「さん」に當る、又女に對しての敬稱として「女士」(マ一)「太太」(云マ 云マ)等がある。又紹介を経ないで自ら進んで先方の姓や號を問ふのは失禮でなく却つて禮儀になつてゐる、故に先きに問はれたなら前置きとして「豈敢豈敢」(ク一)「ク一」(恐れいります)と言つてから自分の姓又は號を告げる、尙「よろしくお願ひいたします」と挨拶も初對面の時に交されるが日本のやうに自分の姓名を述べた直後でなく一通りすつ

初對面の挨拶 右の様な紹介を受けた際の挨拶としては

初會 初會 (ネメ アメ \ ネメ アメ \) と

相手もそれに對して

久仰 久仰 (リ一又 一尤 リ一又 一尤) と應ずるその他更に丁寧な挨拶

としては次の様に云ふのもよい

(1) 兼々お目にかゝりたいと存じてをりました。

久仰大名 我總想拜訪您去、(リ一又 一尤 勿ヤ 口一ム ヂ三 又 アメム

丁一尤 勿方 口元 子一ワ く)

(2) お目にかゝれて好都合でした

今天得遇老兄 實在三生有幸了、(リ一ワ 云一弓 勿三 口四 力么 丁一ム

戸二 下万 么弓 戸ム 一又 丁一ム 力ヤ)

かりと初對面の挨拶を交した後で「求您多多指教」(く一又 子一ム
 勿メ三 勿メ三 出三 子一ム) 又は「我倒是請您多關照」(メ三 勿三
 戸一 子一ム 子一ム 勿メ三 么弓 出三) (こちらこそよろしくお
 願ひいたします)と言ふ様な述べ方をするのである、

- (6) あの方が貴方によろしくと仰有いました。
 他告訴我給您问好、(云Y) 《么⁴ ム⁴ ×³ ×³ 《³ 《³ 了² 了² ×⁴ ×⁴ 了³)
 お母さまによろしく、

(7) 请您替我們問候令堂大人、(く³ 一² 了² 一⁴ 云⁴ 一³ ×³ 了⁴ ×⁴ 了⁴)
 力⁴ 一² 云⁴ 勿⁴ Y 日² 了²)

2、應答の仕方

相槌の打ち方 相手の話に相槌を打つ際の語句を掲げる。

A 同意を表す言ひ方

- (1) さうですども。
 當然的。(勿¹ 允² 日² 勿² 了²)
 勿論、
 自然的、※不用說的。(了⁴ 日² 勿² 了²、※² 了² ×⁴ 了⁴ 了⁴ ×⁴ 了⁴)
 その通り。
 對啦、※不錯。(勿⁴ ×⁴ 了⁴、※² 了² ×² 了⁴ ×⁴)

- (4) さうとも。
 眞的。※ 可不是麼。(出¹ワ 勿¹止¹ ※ 可³止³ク²×²戸⁴「¹Y)
- (5) 全くさうだ
 很是的。※ 很對我的勁兒了。(「³ワ 戸⁴ 勿¹止¹ ※ 「³ワ 勿⁴×³×³止³ 勿¹止¹)
- (6) あゝ成る程。
 原來如此。※ 有理有理。(「²マ 为²方² 曰²×³止³ ※ 一²又³为³一²又³为³一²)
- (7) えゝ分りました。
 是 明白了、(戸⁴ 「²一²レ²ク²方²力²Y)
- (8) 本當だ
 眞的呢。※ 不錯不錯。(出¹ワ 勿¹止¹止¹ ※ ク²×⁴止⁴×²止²ク²×⁴止⁴)
- (9) いゝですとも。
 那可以、※ 請請、(子⁴Y 止²一²・※ く²一³く³一³)
- (10) それぞれ。
 正是。※ 就是。(出⁴レ 戸⁴ ※ リ⁴一⁴又⁴戸⁴)

(18)

全くその通りです。

一點兒沒錯兒。(一⁴勿³一²巧²一²ル²一⁴巧⁴一²ル⁴)

19

喜んで致しますとも。

可以可以。※那到好辦的。(巧²一³一²巧²一³※子⁴一⁴巧⁴一³巧³一⁴巧⁴一⁴巧⁴)

20

どうぞ是非。

請務必的。※請一定的(く³一⁴一⁴巧⁴一⁴巧⁴一³巧³一²巧⁴一⁴巧⁴)

B

躊躇、疑を表す言ひ方

(1)

多分さうでせう。

大概許是罷。(勿⁴一⁴巧³一⁴巧⁴一⁴巧⁴)

(2)

さうでせうね。

是罷？※我想是罷？(巧⁴一⁴巧⁴一²巧²一³巧³一⁴巧⁴一⁴巧⁴)

(3)

まあさうなんでせう。

或者是罷。(一⁴巧³一⁴巧³一⁴巧⁴一⁴巧⁴)

(4)

ええさうだと思ひます。

我想是的。(巧²一³一⁴巧⁴一⁴巧⁴)

(12) (11) (10) (9) (8) (7) (6) (5)

さうかも知れません。

可説不定的。(ㄎㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊ)

それはありさうなことだ。

那倒可以有的。(ㄗㄩㄥˋㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊ)

それは場合によりけりだ。

那得看情形。(ㄗㄩㄥˋㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊ)

まさか。

難道有這回事嗎。(ㄗㄩㄥˋㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊ)

さうたさうです。

聽說是。(ㄗㄩㄥˋㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊ)

さうだといいますが。

那我所希望的。(ㄗㄩㄥˋㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊㄨㄛˊ)

さうでせう。

是罷。(ㄗㄩㄥˋㄨㄛˊㄨㄛˊ)

さう思ひます。

D

(20) (19) (18) (17) (16) (15)

就是我也不知道啊。(4 1 又 尸 X 2 正 1 せ 夕 X 出 1 勿 么 Y)

知りません。

我不知道。(X 2 正 夕 X 出 1 勿 么)

その事は何も存じません。

那件事我一點兒也不知道。(子 Y 出 1 夕 尸 X 3 正 1 勿 1 夕 1 儿 1 せ 夕 X

出 勿 么)

氣がつきませんでした。

我沒理會了。(X 3 正 2 夕 1 夕 1 夕 X 1 夕 Y)

そんなこと氣になさいますな。

不要介意。(夕 X 2 1 么 夕 1 せ 1)

賛成出來ませんね。

我是不能贊成的。(X 3 正 4 尸 夕 X 子 夕 1 夕 2 夕 1 么 夕)

そこは一寸誤解してあるものたす。

那層恐怕有點兒誤解。(子 Y 夕 2 夕 3 夕 1 夕 Y 1 又 夕 3 1 夕 1 儿 X 4 夕 1 せ)

驚きを表す言ひ方。

で「是麼」「是了」「對了」等を用ひるが、「是麼」は幾分疑問を含んだ云ひ方であり、「是了」は「フンフン、さうか」「對了」は「尤もだ」と賛成の意を含めて云ふ

(1) 僕は疲れた。さうですか。

我乏了、是麼、(X³E²□Y²カY⁴・P⁴□Y)

(2) 僕は果物は好かない。さうかい。

我不喜歡水果、是嗎？(X³E⁴□X⁴T³一¹厂¹X²マ²P²X³〱³《X³E⁴・P⁴□Y)

(3) 僕は公園へ行つた。ああさうかい。

我上公園去來着、您哪？(X³E⁴P⁴充⁴《X¹〱²マ⁴ク⁴カ²旁²生²・マ²一¹マ²Y)

(4) そんなことはする必要ありません。さうですか。

不必那樣做、是嗎？(マ²X⁴マ⁴一⁴マ⁴Y⁴一⁴充⁴P⁴X⁴E⁴・P⁴□Y)

(5) 僕は今日へ行かれない。さうですか。

我今天不能去、是麼？(X³E⁴H¹一¹マ¹充⁴マ⁴マ⁴X²〱⁴ク⁴□Y)

(6) あの人は米國へ行くつもりだ。へえさうですか。

他們打算上米國去。啊是嗎？(云¹Y¹□マ³ク⁴Y⁴ム⁴X⁴マ⁴P⁴充³□〱²《X³E⁴

ク⁴、Y⁴□Y)

勿¹さ¹勿¹メ¹ム¹丁¹一¹カ¹ヤ¹)

謝辭に對して「どうぞ致しまして」とか「い、え、お易いことです」などの表現は大體次のやうなものがよい。

(1) どう致しまして。

那兒的話呢。(ヲ³ヤ³ール³勿⁴さ⁴ア⁴メ⁴ヤ⁴ヲ⁴さ⁴)

(2) 何でもないことです。

那~~邊~~清~~邊~~。(ヲ⁴ヤ⁴「²ノ²「²ロ²「²ヒ²」

(3) 禮には及びません。

(這點兒的粗東西)、還值得您客氣麼。(出⁴さ⁴勿³一³カ³ヤ³勿¹さ¹チ¹メ¹勿¹メ¹ム¹

丁¹一¹カ¹ヤ¹出²勿²さ²ヲ²「⁴ヒ⁴さ⁴く⁴一⁴カ⁴ヤ⁴)

(4) どう致しまして。少しでもお役に立つて嬉しいです。

那兒的話呢、對您有點兒用處、就喜出望外了。(ヲ³ヤ³ール³勿⁴さ⁴ア⁴メ⁴ヤ⁴ヲ⁴さ⁴

勿⁴メ⁴「²ヲ²「²ム²一²又³勿³一³カ³ヤ³「⁴ム⁴メ⁴、ヒ⁴一⁴又³丁³一³カ³ヤ³メ⁴メ⁴尤⁴メ⁴カ⁴ヤ⁴)

終りに中國に於ける禮の述べ方であるが「謝辭」は日本語の「有難う」に當り多くの場合その意味に使つて通じないことはないが實際はそれ程に廣く使はれてゐな

いことに注意すべきである。例へば日本の商人は一寸した買物に對しても一々「有難うございます」といふ言ふが中國に於ては此の場合「謝々」とは減多に言はないで「下回用甚慶請過來」(ト一ヤ一ツ×)「ム戸ワ」「ゴクム」(××カカ)「又御入用な物があつたらどうぞいらつしやい」と言ふ。即ち日本の「有難う」といふ所を中國語では時と場合により「有難う」の意味は含んでゐるが色々異つた言ひ方をするのである。

中國語の習ひ初めた人はよく「謝々」を亂發するが之は注意すべきである。以下夫々異つた場合の言ひ方を述べて見よう。

謝々(ト一セト一セ)(有難う)(どうも)一般に軽く禮を述べる時に用ひる。

多謝多謝(カ×ニト一セカ×ニト一セ)(どうも有難うございます)右句より稍々丁寧な言ひ方

禮頭禮頭(カ×ニト一セカ×ニト一セ)(本當に有難う御座います御恩は一生忘れません)餘程感謝してゐるが又は謝罪にする時に使ふ。

領教領教(カ一ムヨ一ムヨ)(カ一ムヨ一ムヨ)(お教へ下さつて有難う)何か教へて貰つた時に 承教承教(カ一ムヨ一ムヨ)(カ一ムヨ一ムヨ)右句と同意

勞駕勞駕 (カ 4 ム 4 ム 4 ー 1 ャ 2 カ 4 ム 4 ム 4 ー 1 ャ 2) (御手数数さまでした) 勞力に對する禮

辛苦辛苦 (ト 1 ー 1 ャ 3 ャ 3 ト 1 ー 1 ャ 3 ャ 3) (御苦勞様) 目下の者の勞力に對する禮

承問承問 (イ 2 ム 4 ャ 2 イ 2 ム 4 ャ 2) (御尋ね下さつて有難う) 安否を問はれた場合

托福托福 (ム 1 ャ 2 ャ 2 ャ 2 ャ 2) (有難う) (御蔭さまで)

叫慙掛心 (ム 4 ー 1 ャ 2 ー 1 ャ 2 ャ 2 ャ 2) (よく御心にお留め下さつて有難う)

病氣見舞の言葉を述べられた場合

叫慙慙記 (ム 4 ー 1 ャ 2 ー 1 ャ 2 ャ 2 ャ 2) (右句と同様)

對不起 (ム 4 ー 1 ャ 2 ー 1 ャ 2 ャ 2 ャ 2) (有難う) 何かして貰つたが「すまない」の意を含む

對不住 (ム 4 ー 1 ャ 2 ー 1 ャ 2 ャ 2 ャ 2) (右句と同様)

多禮多禮 (ム 4 ー 1 ャ 2 ー 1 ャ 2 ャ 2 ャ 2) (どうも御丁寧に) 贈物等を貰つた場合

費心費心 (ム 4 ー 1 ャ 2 ー 1 ャ 2 ャ 2 ャ 2) (御心配に預り) 何かして貰つた時

尙中國での贈物に對してお禮の述べ方は歐米人の様に喜びの感情を表現して受け取るのではなく、すまない感情を表現して拒むといふことに重きを置くから、その點氣持がやゝ違つて來る。贈物を貰つてすぐ「多謝多謝」と言つて受取る人は先づない。普通は左記の様な言葉で再三辭退する。

請您原諒 (くーん 子ーん 弓カ一尤)

どうも相濟みません。

有罪有罪 (二又 P X \ 一又 P X \)

飛んだことをしましてどうも相濟みません。

我弄得這樣實在得罪很了 (X 子 X 勿 出 一 尤 尸 P 勿 亡

P X \ 尸 P 力 Y)

失禮しました何ともありませんでしたか。

對不住得很了、受了傷了沒有？ (勿 X \ 弓 X 出 X 勿 亡 尸 力 Y、 尸 又

力 Y 尸 尤 力 Y 尸 \ 一 又)

こんな遅くなつてしまつて濟みません。

恕我來遲了 (尸 X X 亡 力 尸 力 Y)

失禮ですがそれは私の鉛筆です。

對不起啊、那是我的鉛筆 (勿 X \ 弓 X 一 Y、 子 Y 尸 X 亡 勿 亡 一 弓 弓 二

お話中の所まことに相濟みません。

打攪您說話太對不住了 (勿 Y 尸 一 么 子 一 尸 尸 X 亡 尸 X Y 亡 勿 X \

之に對して次の様に言ふ。

(1) さあ、どうぞ。

請 請 (くーんくーん)

(2) お邪魔ですね。

擋着您道兒了 (勿³尤³出²さ²子²一⁴ワ⁴勿⁴么⁴一⁴ル⁴カ⁴ヤ)

(3) どうも御邪魔さまです。

擋着道兒、對不起了 (勿³尤³出⁴さ⁴勿⁴么⁴一⁴ル⁴、勿⁴×⁴、勿⁴×⁴く³一⁴カ⁴ヤ)

5、依頼の仕方

相手の許可を得るために「／＼していただけますか？」或は「／＼してよろしゅうございますか？」と言ふ表現形式は非常に澤山ある、親しい間柄とか又は目下の場合以外は苟も他人に物を頼むのである以上つとめて慇懃な態度で物柔かな調子で言ふがよい、次に代表的な言ひ方を示さう。

(1) この新聞もつて行つていただけますか。

這報紙拿去無妨麼 (出⁴さ⁴勿⁴么³出²子²一⁴く⁴、×²一¹尤¹「ヤ」)

- (8) 您到這兒來罷 (子²一¹ワ⁴カ⁴么⁴出⁴止¹ル²力²万²々²Y)
- タクシイを呼んで下さいませんか。
- 您給我叫輛汽車來罷 (子²一¹ワ⁴《²×³止⁴リ⁴一⁴么⁴力⁴一⁴尤⁴く⁴一¹止²力²万²々²Y)
- 恐れ入りますが本を取つて下さいませんか。
- (9) 勞駕您哪、把書遞給我罷 (力²么⁴リ⁴一²Y²子²一¹ワ³Y、与³Y¹尸¹×⁴勿⁴一²《²×³止⁴リ⁴Y)
- 御面倒ですが窓を閉めて下さいませんか。
- (10) 麻煩您哪、把窗戶關上罷 (口²Y²一²子²一¹ワ³Y、与³Y¹×¹尤¹尸¹×¹《¹×⁴尸⁴尤⁴々⁴Y)
- 以上に對する應答。
- (1) はい、承知しました。
- 可以可以 (1、2、3、4、5、6、9、10 の場合) (可²止²一²可²止²一)
- 是了 (7、8、の場合) (尸⁴力⁴Y)
- はい、よろしうございます。
- (2) 是※可以啊※知道了 (尸⁴※可²止²一¹Y※出¹カ⁴么⁴力⁴Y)

6、物の尋ね方

人に物を尋ねる場合、殊に末知の人に尋ねる場合は先づ前置として「失禮ですが」「借光」(ジ一セク×光)等と言つて次に質問の文句を發するがよい。

(1) 一寸お尋ねしますが、停車場は何處でせうか。

請問您、車站在那兒呢？(く一ム×ワ⁴ヲ一²ワ、イセ出⁴マ⁴ヲ³ヲ一¹ル

ヲセ)

(2) 失禮ですが、あなたは李先生ではありませんか。

借光、您不是李先生麼？(ジ一セク×光、ヲ一²ワ²ク×⁴ルカ一¹ト一¹マ

ルム「リ」)

(3) 失禮ですが、何時頃でせうか。

借您一聲、現在甚麼時候兒了？(ジ一セク²ヲ一⁴ワ一⁴ルムト一⁴マ⁴ヲ⁴ヲ²ル

「セ²ル⁴ヲ⁴又⁴一¹ルカ¹リ」)

(4) これはどういふ意味でせうか。

這是怎麼個意思呢？(出セ⁴ル⁴マ³レ³「ヒ⁴クセ⁴一⁴ム⁴ヲ⁴セ」)

(5) 之は何と言ひますか。

這叫甚麼呢？(出さ⁴り⁴一²么²尸²レ²コ²エ²ラ²セ)

(6) うましゆしと思ひませんか。

您不想我們能辦到好處嗎？(ア²一⁴レ⁴ク⁴×³ト³一³尤³×³エ³コ²レ²ラ⁴ク⁴マ⁴ク⁴么⁴)

ア³么⁴イ⁴×⁴コ⁴レ⁴ヤ⁴)

(7) その事は大丈夫ですか。

那個事情靠得住嗎？(ア⁴ヤ⁴ク⁴セ⁴尸⁴ク⁴一⁴レ⁴ク⁴么⁴ク⁴セ⁴出⁴×⁴コ⁴レ⁴ヤ⁴)

(註) (4) 以下は形式としては丁寧なものでないが穩やかな語調で言へば親しい

間柄では却つて卒直でよい。

更に一般的な物の尋ね方を掲げる。

(1) 一体それは何ですか。

究竟那是甚麼呢？(ア¹一⁴又⁴ア⁴一⁴レ⁴ア⁴ヤ⁴尸⁴レ²コ²エ²ラ²セ)

(2) 濟みませんが張さんのお宅は何處でせうか。

請問張先生家、在甚麼地方呢？(ク³一⁴レ⁴×⁴レ⁴出¹尤¹ト¹マ¹尸¹レ¹ア¹ヤ¹)

ア⁴ワ²尸²レ²コ⁴レ⁴カ⁴一⁴レ⁴尤⁴ラ⁴セ)

8、同意を表はす形式

一般的なもの

- (1) 勿論
 當然的、※自然的、(カ¹尤²曰²弓²勿²亡、※下⁴曰²弓²勿²亡)
- (2) 全く
 不錯、※是的(弓²×⁴亡⁴×⁴亡、※尸⁴勿⁴亡)
- (3) 全くです。
 真的、※實在的(出¹ワ¹勿⁴亡、※尸²下⁴方⁴勿⁴亡)
- (4) 私もさう思ひます。
 是了、我也那麼想(尸⁴弓⁴亡、×²亡³一³せ⁴弓⁴亡⁴亡³亡³亡³)
- (5) その通りです。
 很對了、※真的(尸³ワ⁴勿⁴×⁴亡⁴、※出¹ワ¹勿⁴亡)
- (6) それについては何等疑ひありません。
 那沒有疑問的(弓⁴亡⁴亡⁴亡⁴、一³又²一²×⁴ワ⁴勿⁴亡)

心から同意する場合

- (7) 結構です。
 那好極了 (ㄅ⁴ㄩ³ㄩ²ㄩ¹ㄩ⁴)
- (8) それです。
 正是 (ㄕ⁴ㄩ⁴)
- (9) 全く同感です。
 可不是癡 (ㄕ³ㄩ²ㄩ⁴ㄩ⁴)
- (10) それは素晴らしい。
 那妙極了 (ㄅ⁴ㄩ⁴ㄩ²ㄩ¹ㄩ⁴)
- (11) 全くお仰せの通りです。
 您說的很是 (ㄅ²ㄩ¹ㄩ⁴ㄩ³ㄩ⁴)
- (12) 私が言はうと思つてゐたことです。
 很對我的意思 (ㄩ³ㄩ⁴ㄩ⁴ㄩ³ㄩ⁴)

9、不同意を表はす形式

- (10) (9) (8) (7) (6) (5) (4)
- 實在是(尸²尸⁴尸⁴)
 とにかく。
- 好歹、※ 總而言之(尸²么³勿³、※ 尸³×³厶²儿²一²弓¹出¹)
 どのみち。
- 左右、※ 反正是(尸³×³厶⁴一⁴又³※ 尸³弓⁴出⁴尸⁴)
 序ですが。
- 順便告訴您哪、※却說※且說(厶⁴×⁴尸⁴弓⁴一⁴弓⁴厶⁴厶⁴尸²一²尸²尸²)
 ところで。
- 可是(尸³厶⁴尸⁴)
 ……なんですよね。
- 您也知道的(尸²一³尸³一¹世¹出⁴勿⁴么⁴勿⁴)
 例へば。
- 比方、※ 好比(尸³一³尸¹厶¹尤²、※ 尸²么³尸³)
 考へてみれば。
- 想着(尸³一³尤³尸³)

(18) (17) (16) (15) (14) (13) (12) (11)

私の方は。

對干我、※我這方面(勿⁴×²、²×³×³※×³×⁴出⁴□¹尤⁴□¹一⁴巧)

云つてみれば。

說來(尸¹×²×²カ²カ²)

ええつと。

我說(×³×¹×¹×²)

えつと、はてな。

我理想(×³×²×¹×¹×¹×¹)

え、それや。

那是……(子⁴Y⁴尸⁴……)

まあかうなんですよ。

我告訴您哪(×³×⁴×⁴×⁴×²×¹×¹×¹)

それで思ひ出したが。

這我想起來了(出⁴×³×²×¹×¹×³×¹カ²カ¹Y)

私のいふのは。

(25) (24) (23) (22) (21) (20) (19)

我說的是這個意思 (X³Y¹X²Z⁴勿⁴Y⁴出⁴く⁴さ⁴一⁴ム)

今も云ふ通り。

如方纔我說過的 (日²X¹Y¹元²方³X³Y¹X²く⁴X²勿⁴さ)

かう。なんだよね。

也就是這樣罷 (一³せ⁴リ⁴一⁴又⁴Y⁴出⁴一⁴尤⁴ウ⁴Y)

私の云はうとしたのは。

我要說的是 (X³Y⁴一¹ム¹X²Z⁴勿⁴Y)

まあ私はさう思ふね。

我是這麼想了 (X³Y⁴出⁴Y³一³尤⁴ウ⁴Y)

まあさういつたものを。

是的、也就是那麼樣的 (Y⁴勿⁴さ、一³せ⁴リ⁴一⁴又⁴Y⁴Y⁴Y⁴一⁴尤⁴勿⁴さ)

まあさう云つた意味の言葉さ。

也就是那樣意思的話了 (一³せ⁴リ⁴一⁴又⁴Y⁴Y⁴一⁴尤⁴一⁴ム⁴勿⁴さY⁴Y⁴ウ⁴カ⁴Y)

何と云ふのかはつきりは知りませんが。

叫甚麼、我可記不大清楚 (Y⁴一⁴ム²Y⁴Y²、X²Y³ウ³さ⁴Y⁴一⁴ウ²X⁴勿⁴Y)

くーんイメ³

12、呼び掛け・質問・聞き返し

(1)

呼び掛け 呼び掛けの言葉も極めて多種多様にある、その種類の多い點では日本語などと横網格に入つてゐる、故に呼び掛けの言葉は慎重に選擇を要するものである。

階級、職業、年齢、親疎の差などをよく考慮して相手に禮を失したり面喰はせたりすることのない様に注意せねばならぬ。

- (1) 兄弟姉妹間にあつては、決して敬稱を用ひないで單に名前だけか畧稱を用ひる。
 (2) 父母への呼び掛けは、父の時は單に「お父さん」「爸爸」(ㄍㄩ ㄍㄩ) 母の時は「お母さん」「媽媽」(ㄞㄩ ㄞㄩ) でよい。
 (3) 父母が自分の子を呼ぶには、本名とか畧稱でよい。
 (4) 祖父母の場合は「お祖父さん」「爺爺」(一せ 一せ)「お祖母さん」「奶奶」(ㄝㄝ ㄝㄝ) といふ。
 (5) 夫婦間にあつては一般に本名とか畧稱をその儘用ひる。

(6)

他人の時は、親しい間柄では姓の前に「老」(カ³么)をつけて呼ぶ、例へば張さんを老張(カ³么 出¹ 充)といふ、相手の名を知らない場合は「借光」(リ⁴一⁴せ¹ 充) (もしもし)とか「借光借光」(リ⁴一⁴せ¹ 充¹ 充¹ リ⁴一⁴せ¹ 充¹ 充¹) (失禮ですが) などと言ふ。

中國での親類、親戚の呼び方(第二人稱)は實に複雑なものである。

先づ父は「爸爸」又は「爺」※(カ⁴ヤ⁴カ⁴ヤ⁴ ※ 欠¹一⁴せ)「南方では阿爸」

(カ⁴ヤ⁴カ⁴ヤ⁴)又は阿爺(カ⁴ヤ⁴欠¹一⁴せ)と呼ぶ。

母は媽媽(カ⁴ヤ⁴カ⁴ヤ⁴)又は娘(カ⁴一⁴充)「南方では阿媽」(カ⁴ヤ⁴カ⁴ヤ⁴) 阿娘

(カ⁴ヤ⁴カ⁴一⁴充)と呼ぶ。之を一生を通じて呼ぶのである。

兄弟姉妹は原則としては皆名を呼ばない。兄さん哥哥(カ⁴一⁴充¹ 充¹) 姉さん

を「姐姐」(リ⁴一⁴せ¹ 充¹) 弟を「弟弟」(カ⁴一⁴充¹ 充¹) 妹を「妹妹」(カ⁴一⁴充¹ 充¹)

「カ⁴一⁴充¹」と呼ぶ。兄弟姉妹が多い場合は大哥(カ⁴一⁴充¹ 充¹ 充¹) 二哥(カ⁴一⁴充¹ 充¹ 充¹ 充¹)

大姐(カ⁴一⁴充¹ 充¹ 充¹) 二姐(カ⁴一⁴充¹ 充¹ 充¹ 充¹)と以下只數を増して行けばよい。

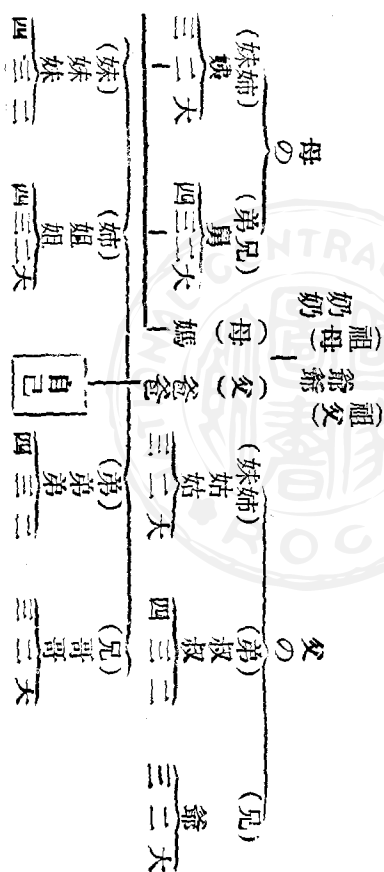
弟妹は直ぐ下の弟を二弟(カ⁴一⁴充¹ 充¹ 充¹) 妹を二妹子(カ⁴一⁴充¹ 充¹ 充¹ 充¹) 以下只數を

増せばよい。

次表の如く大爺(ㄉㄧ⁴ㄩ²ㄟ²)「父の兄」叔叔(ㄩ²ㄨㄨ²ㄨㄨ²)「父の弟」姑姑(ㄍ¹ㄨㄨ²ㄍ¹)「父の姉妹」舅(ㄋㄟ⁴ㄩ²)「母の兄弟」姨(ㄟ²)「母の姉妹」も同様に大、二、三、四と數を増して行くのである。しかしたまに「南方では」大、二、三、四の代りに名を入れて呼ぶこともある。

尙祖父を「爺爺」(ㄧㄟ²ㄟ²)「祖母を「奶奶」(ㄋㄟ³ㄩ²)と呼ぶ。

夫婦間及下輩(ㄊㄩ⁴ㄩ²ㄎㄨ⁴)「目下の者」の呼稱は名を呼び捨てにする。



(2)

(1) 質

問、聞き返し

(1)

「何と仰有いましたか」

(2)

「恐れ入りますが、もう一度仰有つて下さい」

(3)

「済みませんが、何と仰有つたのでせうか」

(1)

「対不起啊、您說什麼來着？」

(2)

「己方出さ」

(3)

「對不起啊、您說什麼來着？」

(1)

「己方出さ」

(2)

「對不起啊、您說什麼來着？」

(3)

「己方出さ」

(1)

「對不起啊、您說什麼來着？」

(2)

「己方出さ」

(3)

「對不起啊、您說什麼來着？」

ム「Y」

(4) 「私の言ふ意味がお分りでせう」

我説的意思您明白吧 (X³ロ¹X²ロ¹ロ⁴—ム²—ロ²ロ²—ム²ク²ヲ「Y」)

(5) 「私の言ふことがはつきりしませんか」

我説的話不清楚麼? (X³ロ¹X²ロ¹ロ⁴—ム²—ロ²—ム²ク²—ム³—ム³行³X「Y」)

民國三十四年十一月二十日印刷
民國三十四年十一月二十七日發行

國語會話集（日語對譯）

定價四元五角

編輯者

臺中州大同會編輯部

發行所

臺中市錦町二ノ二九
大同書局出版部

印刷者

臺中市曙町一丁目二番地
王 陳 守 義

印刷所

臺中市曙町一丁目二番地
華臺商事社印刷廠



臺灣總發售處

臺中市錦町二ノ二九

元 傍士第二印刷所

大同書局